

授業科目 保健医療福祉連携学 II (福祉現場)

【担当教員名】 西川 薫	対象学年	3	対象学科	理学・作業・言語・義肢・臨床・健栄・スポ・社会・看護・情報
	開講時期	前期 b	必修選択	選択
	単位数	1	時間数	15

【カリキュラムポリシーとの関連性】				
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	◎	◎	◎	◎

【概要・一般目標：G10】
福祉の現場において、生活の質を考慮した支援を提供するためには多職種間の連携なしに出来ない状況にある。本講義では福祉現場において行われる様々な連携のあり方について、多職種の専門性をふまえながらその実態と必要性について理解する。
(1) 福祉現場における各専門職の役割について知る
(2) 福祉現場における連携の必要性を理解する
(3) 福祉現場で行われている連携の実際を知る。

【学習目標・行動目標：SB0】
1. 福祉における各専門職の役割について列挙する
2. 福祉現場における連携の必要性について説明する。
3. 福祉現場における多職種の連携の実際について述べる。
4. グループワークを通して、それぞれが学んでいる専門分野の立場から意見を述べる。

回数	授業計画・学習の主題	SB0 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	【オリエンテーション】福祉現場における連携の紹介	1, 2, 3.	西川 薫 (看護学科)
2	【講義】福祉現場における事例 (その1)	1, 2, 3	(外部講師)
3	【グループワーク】提示事例の検討	1, 2, 3, 4	担当教員 および ファシリテータ教員
4	【講義】福祉現場における事例 (その2)	1, 2, 3	(外部講師)
5	【グループワーク】提示事例の検討	1, 2, 3, 4	担当教員 および ファシリテータ教員
6	【講義】福祉現場における事例 (その3)	1, 2, 3, 4	(外部講師)
7	【グループワーク】提示事例の検討	1, 2, 3, 4	担当教員 および ファシリテータ教員
8	【リフレクション】授業のまとめ・グループのふりかえり	1, 2, 3, 4	西川 薫 (看護学科)、他

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)				
参考書				
その他の資料	その都度提示			

【評価方法】 出席は2/3以上を前提とする。 1. 授業への出席状況 40% 2. その他、グループワークへの積極的取り組みやレポート等が 60% 授業中は積極的に発言すること。	【履修上の留意点】 授業は講義とグループワークを交互に実施する。 グループワークは、福祉の現場における事例への適切な対応について、連携を中心にすえた話しあいにより時間内にグループ発表をおこなうものである。グループは受講者 160 名が 5～6 名程度づつ 30 グループを形成し、3 回のグループワークにおいて各グループのメンバーは変更しない。
---	--